

小林製薬株式会社 2022年12月期第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

Q. 7-9月の国際事業が好調だった要因は何か？

A. 東南アジアの熱さまシート、アンメルツ、カイロが好調だったことが主な要因。特に熱さまシートは、新型コロナウイルスのワクチン接種による発熱対策としての需要はほぼ落ち着いてきたが、新型コロナウイルスの他、インフルエンザやデング熱など、様々な感染症が流行したことで需要が増加し、好調に推移している。

Q. 10-12月も国際事業の好調は続く見通しか？

A. その通り。

Q. 中国は足元もロックダウンが続いており、内需は厳しい中、なぜ7-9月は現地通貨ベースでも前年並を確保できたのか？

A. インフルエンザの流行やO2O (Online to Offline) の販促効果等で熱さまシートが好調なことに加え、カイロの出荷が順調に行っていることが主な要因。

Q. 米国の7-9月は現地通貨ベースで減収となっているが、その要因は何か？

A. カイロの出荷が、昨年は9月、今年は10月に期ずれしている影響が大きい。

Q. 自社株式の取得と消却をこのタイミング・規模で実施した理由は？

A. 自社株式の取得・消却については、特に時期を決めているわけではなく、機動的に実施している。

キャッシュは成長投資にまず使い、それでも余ったものを株主還元する方針。株主還元については、連続増配を重視し、毎年少しずつ配当を増やすことが基本的な考えだが、それでもなお内部留保が溜まり、ROEが低下しそうな場合に機動的に自己株取得を実施する。ROEのターゲットは中期経営計画で掲げている10%が目安。

自己株式の消却についても、これまで自己株式の取得を進めてきたことで保有株数が増えてきたが、取得した自己株式を市場へ再放出する意思がないことを明確に示すため今回実施することに決めた。

Q. 通期の原材料値上げの影響は、中間決算で発表した+23億円から変化はあったか？

A. 大きな変化はない。

Q. 来年の原材料値上げに対して、製品値上げでカバーする金額が10億円は少なすぎるのではないか？

A. 原材料値上げ分を全てお客様に負担させるべきではないと考える。自助努力で吸収することも必要。残りは増収による粗利増や高価格帯へのシフト、コストダウン等でカバーしたい。

- Q. 訪日外国人が増えてきているが、インバウンド需要の状況は？
- A. 底を打って若干戻ってきている傾向はあるが、インバウンド需要の多くを占めていた中国人旅行客が全く戻ってきていないため、業績への影響はごくわずか。
- Q. 今期の業績への為替影響はどのくらいになりそうか？
- A. 売上は通期で40～50億円ほどプラス影響がある見通しだが、利益については±0となる見通し。
- Q. 7-9月の国内が弱かった要因は何か？
- A. 競合環境が厳しく、市場全体も鈍化した芳香消臭剤が悪かったことに加え、昨年大きく伸びたスキンケアのオードムーゲが今期反動減で悪いことなどが主な要因。
- Q. インフレによる消費動向の変化は？
- A. 大きな変化は無い。
- Q. 国内は秋に2品目値上げを実施したが、売上を大きく落とすことなく順調に行っているのか？
- A. その通り。
- Q. 7-9月の国内の利益が悪い要因は？
- A. 原材料値上げによる影響が大半。

以上

【注意事項】

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。